

## 「地球1個分の暮らしを未来に繋ぐ」Vol.2

### 合同会社渥美どろんこ村（田原市）

#### 取組概要

- 所在地：愛知県田原市江比間町西砂畑 21-1
- 代表社員：渡部弘
- 設立年：1974年4月
- 雇用者数：臨時雇用 3名



#### 取組概要

生産だけではなく農業や農村の価値を知らしめると同時に、農業と農村資源を活用した教育活動を通じて持続可能な社会づくりに貢献することを目的として設立し、田原市の地形や農村資源を取り入れた食農教育・生涯学習活動（小学生を対象とした食農教育と、中学生以上を対象とした農業後継者育成）を展開している。具体的には「スタディファームステイ」という農村資源を活かした体験学習である。

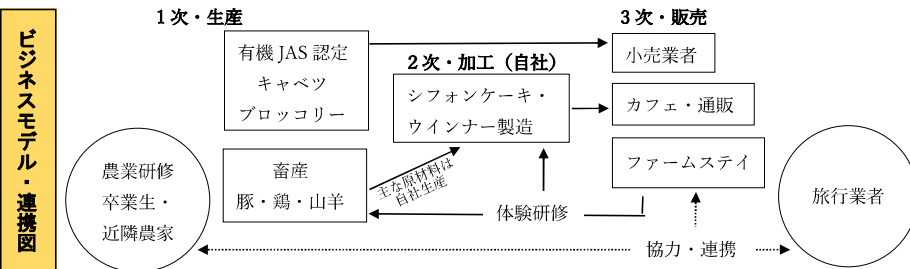
#### 取組までの経緯

農家の自給自足の暮らしを体験する「ファームステイ」の運営は、小笠原農園と連携して行っている。小笠原農園は、有機JAS認定を取得した農家で、農業生産と並行し、1997年からこの食農教育・生涯学習活動を収益事業として展開してきた。日帰り、2泊3日、1年間で、小学生から大学生まで25年間で通算6,600名以上が参加し、中には就農し独立した参加者もいる。また、活動に関心を持つ近隣農家も増えてきたが、これまでのプログラム内容は小笠原農園のノウハウによるところが大きく、明文化・体系化された資料が少なく、集客方法は、過去に小笠原農園での体験参加者のレポートやクチコミによるところが大きく、広報・営業資料が未整備だった。

#### 取組の特徴、強み

渥美半島・田原市の農村資源の周知や理解促進にもつながる。農業産出額が全国トップクラスの田原市において、農食連携の食農教育及び生涯学習といった農的教育プログラムの拠点となるための基盤ができあがる。

活動に関心を持つ近隣農家が増えてきた。



#### 取組の課題

- ・日帰り、宿泊の体験メニューの充実、親子での体験を増やしたい。
- ・スタッフ人材を集める。ピラミッド型ではない一人一人の特性に合わせた働き方ができるよう、自分で考えて自分でやってみる、主体性をもった人材の育成。
- ・Webページの充実。立ち上げは委託するが、どろんこ村で運用・更新できるよう既存のCMSを活用したサイトを制作し、コストを削減する。
- ・学校等にPRすることで体験者を増やし、口コミでの広がりを期待する。直近年の参加者へ案内を送付、教育委員会を通じて児童に案内。

#### 課題解決の方法

教材（絵本ノート、デジタル絵本、動画）及び広報ツールを制作し、地域内の農家等と協働して食農教育・生涯学習活動に取り組むことができる体制を整えると同時に、広報を広く全国に戦略的に集客を働きかける。

また、教材の整備充実、参加者の体験をより自発的な経験価値化を促す役割を果たす。渥美半島は、静岡県を除く他県からのアクセスが良いとは言えない地域であるため、どろんこ村の古民家や、連携者、市内の農業者等が宿泊サービスを提供することで、長く渥美半島に留まり、スタディファームステイだけでなく、連携者や他の農業体験や観光を満喫してもらうことが可能になる。農泊をやりたいが、滞在させるためのコンテンツがないと考えている農業者とは積極的に組むことができると考える。

市内の宿泊施設や観光施設と連携した宿泊ツアーの開発も進め、観光消費の促進に貢献する。

#### 取組の効果

売上高：取組前の2.7倍増  
雇用者数：0人→3人

#### 活用した支援策

令和5年度6次産業化支援事業補助金

#### 今後の展望

どろんこ村で研修を受けて、農業を志す人を増やしたい。農的な仕事をする人を増やしたい。運営にあたっては役割分担が必要になるため、申込受付後から受け入れまでの流れや、プログラムで実施する内容の確認を行う。令和6年4月以降のファームステイの様子を、SNS・動画サイト等を活用して発信し、更なる集客活動を行うほか、教材の広報も行う。教材が完成次第、過去の参加者及び学校等に対して教材や新たなプログラム「日帰りスタディファームステイ」を紹介し、再訪を呼び掛け、リピーターの集客を図る。

#### 取組者のコメント

農業と農村資源を活用した教育活動からスタートし、ゆくゆくは田原市内外の他産業も巻き込んだ、様々な地域資源を活用した体験ツアーを展開できる体制の構築を目指す。このスキームを全国に発信し、農村資源や農業の価値の見直しや農業に親しむ機会を増やし、新規就農のモチベーションを高めるきっかけを提供すると同時に、各地の特徴ある地域産業と組み合わせた新しい地域コンテンツの開発を促し、田原市と同様の課題を抱えた全国各地の地域課題への取組を促進する